



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和6年5月17日
長崎市立西北小学校
文責：校長 江原芳樹
R6 第2号

山々に目をやると、それぞれの樹々がそれぞれの新芽を出し、様々な「みどり」があることに気がきます。その様子はさながらパッチワークのようです。山全体としては一つのまとまりですが、表現している色はそれぞれです。でも、1カ月もたつと、「それぞれのみどり」だった山が、濃い一つのみどりの塊になっていきます。違いからスタートした春が、夏に向かいながら、一つのまとまりとなっていくのです。

学校も同じです。4月にスタートした新しい学級では、2週間ほど経ったところから、「それぞれの色」が見られるようになりました。学級集団において「自我」を見せられるようになってきたからです。大切なのはこれからです。「それぞれの色」を持ちながら、大きく一つにまとめることができなければなりません。運動会は、「大きく一つにまとめる」ための有効な手立てでもあります。

とはいえ、すべての子どもが運動会を楽しみにしている訳ではありません。学校という場で、求めていきたいことと、個々の状態を見極めながら、「大きく一つにまとめる」方向へと導いていきたいと考えています。

応援団長及び副団長認定証

5月26日（日）は、運動会です。今、学校では運動会に向けた練習が行われ、活気が高まっています。「本番で一番成長した姿を見せよう！」と取り組んでいるところです。

5月9日には代表委員会があり、今年の運動会のテーマについて話し合われました。今年の運動会のテーマは、「燃え上がる闘志と勝利へ突き進め！」です。昨年度のテーマには「西北魂」という言葉がありましたが、今年のキーワードは「闘志」のようです。自分から向かっていくことが大切であること、気持ちを奮い立たせて取り組むことが大切であることを、運動会のテーマに込めたのだと思います。このテーマの下、どんな姿を見せてくれるのか、とても楽しみです。

さて、運動会は赤・青・黄の3色に分かれ、色対抗で行われます。各学年縦割りで色集団を構成し、6年生の応援団長を中心に、優勝を目指し取り組みます。運動会を盛り上げる応援団の存在は大きく、応援の練習がそのまま運動会へのまさに「闘志」を高めています。そこで、先日各色の応援団長と副団長に、運動会の成功を託す意味から「応援団長認定証」「応援副団長認定証」をそれぞれ渡しました。大いに運動会を盛り上げ、西北っ子の高まりを表現してくれるものと思います。ご期待ください。

なお、運動会当日は、参観のための場所取りは控えていただき、譲り合って参観をお願いします。また、ビデオや写真などSNSでのアップは絶対に控えるようお願いします。

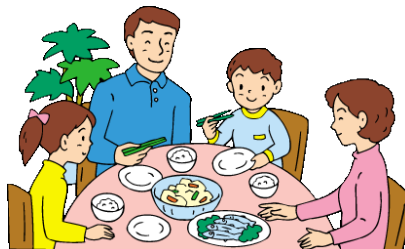


体調管理に気をつけて

ここ数年、運動会の練習時期には暑い日が続き、暑さに体が慣れていないため、軽い熱中症が起きやすくなりました。学校では、運動会の練習時には給水時間を確保したり、激しい動きの後は一定の休憩を入れたりして対応していますが、今年は少し様子が違います。

今年は、朝はまだまだ肌寒く、午後には気温が上がるといった、1日の寒暖差が大きい日が続いています。気温があまり上がらないので、活動はしやすいのですが、寒暖差が大きいいため、体調不良となる子どもが多い印象です。そのためか、嘔吐の症状を訴える子どもが多くなっています。

運動会練習にしっかりと備えるためにも、やはり「早寝早起き、朝ご飯」の基本的生活習慣を意識して過ごすことが大切だと考えています。



長崎県教育委員会研究指定

令和6年、7年の2か年で、長崎県教育委員会から指定研究を受けることになりました。研究テーマは、「学びに向かう力の育成」です。

西北小学校では、昨年度から「自立した学習者」をテーマに研究に取り組んできました。授業においては、単に先生からの教えるだけでなく、自分たちから取り組んでいくよう対話的な学びを取り入れたり、家庭学習を自主的な取組または選択できる取組にしたりしてきました。2か年の研究では、子ども自身が自分の学習状況を理解し、自分の学び方を意識して学習に向かっていけるように、また、自分の課題や成果を捉え、次の学びへとつないでいけるように研究を深めたいと考えています。

特に家庭学習については、一律の宿題から子どもが主体的に家庭学習を進める転機だと考えています。

ご家庭においても、一緒にお子さんと学習状況（今、自分の学習の在り方はいかが。どんなところに課題があって、どんなところは継続させてよいか。）について、話をしてみませんか。



《校長散歩道 No. 1 3》

難民支援衣料回収プロジェクトのご協力ありがとうございました。66袋とたくさんの衣料品を集めることができました。先日、大切に関係機関へ引き渡しました。

さて、この衣料回収プロジェクトは6年生のボランティアが受付をしてくれています。今回、6年生の姿を見ながら「ボランティアは誰かのためでなく、自分のためにする」という言葉を思い出しました。受付が始まった当初、参加した6年生の表情はさほど活気あるものではありませんでした。それが日に日に活気づき、素敵な表情になっていきました。回収のため受付に立っているのに、登校してくるすべての子どもたちへ大きく元気なあいさつをします。机の片付けも自分たちで動きます。そして、終わりの方には「もっとしたい。」と意欲を高めていました。文教大学教授二宮氏は、ボランティア活動をしている人に注目し様々調査を行っています。その中で、日本人の特徴として「誰かのため、社会のためという動機が強く、自己充実の動機が低い傾向が見られる」と述べています。6年生の姿は、まさに「自己充実」の姿でした。よくなっていく自分への充実感が、あんなに素敵な表情を創ったのだと思うのです。